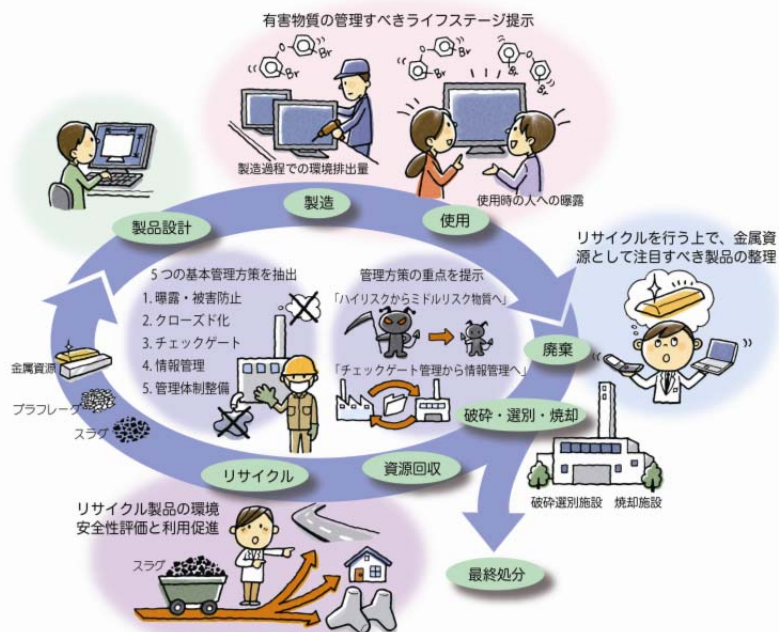


## 製品ライフサイクルにおける化学物質リスクの評価と管理について

(独) 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 滝上 英孝

わたしたちが日常手にする様々な製品は、材料や部品から構成され、有機物質や無機物質といったいろいろな物質の集合体になっています。こういった製品は、生産・出荷され、実際に使われることで世の中の役に立った後に、廃棄されます。そのうち、必要な部品や材料がリサイクルされ、不要なものは燃やされ、埋め立てられます。このような一連の経過を、生き物の一生になぞらえてライフサイクルと呼びます。この製品ライフサイクルの中で、製品中の物質は周辺の環境といろいろな場面で接点を持ちます。環境と製品との関わりを考える際に最も重要なことは、製品として使われた物質が、環境中に出て行ってコントロールの利かない状態にならないようにすることです。つまり、資源価値の高い物質についてはうまく回収して再利用し、有害性のあるものについては人や生態系に影響のないように管理することだと考えられます。これを資源性と有害性の管理と呼び、双方を達成することが求められています。現在、進めている研究センターの研究プログラム「国際資源循環に対応した製品中資源性物質・有害性物質の適正管理」の枠組みにおいて、特に国内外のライフサイクルに関わる「現場」で得られる資源性と有害性に関する知見を得るため調査研究を行っており、震災廃棄物処理に関する取り組みを含めて成果をご紹介します。



製品ライフサイクルにおける化学物質の管理